

新年のごあいさつ

平成27年の新春を迎えて

津市長 前葉 泰幸

津市民の皆さま、明けましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

平成18年1月、新たな歩みを始めた津市は、今年誕生10年目という節目の年を迎えました。

これまでの間、市町村合併時に皆さまが思い描いた新しい津市のまちづくりを着実に進めてまいりました。4大プロジェクトとして位置付けた事業も一つ一つが形となって現れ、新斎場「いつくしみの杜」はこの2日に供用を開始し、新最終処分場、JR名松線は来年春の供用開始に向け順調に事業が進んでいます。ご心配をお掛けしておりました産業・スポーツセンターについても、早期に建設工事に取り掛かるべく準備を進めています。

医療では、新しい応急診療所の整備に向けた取り組みを進め、産業振興では、40社の企業誘致の実現や獣害対策推進費の増強、教育では、小中学校の大規模改造を進めるなど、各分野にわたり、まちづくりを進めました。さらに、中心市街地の活性化や子育て対策などについては、広くご意見・ご提案をいただけるよう、オープンディスカッションを開催し、皆さまと連携した市政を推し進めてまいりました。

合併時に目標として掲げられた施策は、具体の事業として着実に実現できてきたものと思います。また、東日本大震災を踏まえた緊急一時避難場所の確保や津センターパレス、ポルタひさいの経営問題のように合併時に予期されていなかった課題についても、先送りすることなく対応してまいりました。

しかしながら、変化の早い時代の中で、さらなる課題も生まれてきています。全国的な課題である少子化対策には、子どもを産み育てやすい環境整備がますます重要になってきますし、福祉、医療はもとより教育、環境、産業振興などの分野においては、よりきめ細かい施策の展開が必要です。

だからこそ、住民に身近な基礎自治体には、その時々々の社会情勢を見据え、将来を展望しつつ、市民に寄り添った行政サービスを展開していく力量が今まで以上に求められてくるものと考えています。

皆さまの市政に対する期待をしっかりと受け止め、そして、次世代が津の歴史を誇りにしていただけるよう、これまで築いてきた健全財政を基盤に、責任を持って堂々とした市政を展開し「風格のある県都津市」の創造に努めてまいります。